

決算補足説明資料

2023年度 3-11月期 業績概要

注意事項

- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2023年3月1日～2023年11月30日)

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

本日は、お忙しい中、決算オンライン説明会にご参加いただき、ありがとうございます。

それでは、2023年度 第3四半期連結累計期間の業績概要について、ご説明いたします。

4 ページにお進みください。

1. 2023年度 3-11月期 連結業績

- 2023年度 3-11月期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2023年度 3Qの取り組み

2. 2023年度 通期 連結業績見通し

- 2023年度 通期 見通し
- 営業利益増減要因分析

3. 参考資料

- 設備投資・研究開発費,為替レート・感応度
- B/S 構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 四半期売上収益推移
- 四半期受注推移

セグメント別事業概要

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ ACサーボモータ、コントローラ
- ・ リニアサーボ
- ・ インバータ
- ・ PMモータ

など



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - FPD搬送・ハンドリング用途向け
- ・ 半導体製造装置用ロボット
- ・ バイオメディカル用途向けロボット
- ・ 人協働ロボット

など



システムエンジニアリング

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
- ・ 上下水道用電気計装システム
- ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ

など



その他

- ・ 物流サービス

など

YASKAWA

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

1. 2023年度 3-11月期 連結業績

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

- ・ 生産が正常化し、受注残の消化が進んだことから増収
- ・ 価格転嫁などにより主力事業は増益も、昨年度に発生したその他収益がなくなり全社では減益

	2023年度 3-11月期 実績	2022年度 3-11月期 実績	前 年 同 期 比	
			増減額	増減率
売 上 収 益	4,243億円	4,075億円	+168億円	+4.1%
営 業 利 益	465億円	481億円	▲16億円	▲3.3%
税 引 前 利 益	484億円	511億円	▲26億円	▲5.2%
親会社株主に帰属する 四 半 期 利 益	348億円	372億円	▲24億円	▲6.5%

当期の経営環境は、製造業全般における生産の高度化・自動化を目的とした設備投資が底堅く推移した一方、半導体・電子部品向けの需要は調整局面が継続しました。

このような中、当社グループの業績は、部品不足などのサプライチェーンの混乱により遅れていた生産が正常化し、受注残の消化が進んだことから、前年同期比で増収となりました。

利益面については、高騰した原材料費などの価格転嫁の取組みなどにより、主要セグメントにおいては増益となりましたが、昨年度に一時的に発生した退職年金制度の変更や、遊休不動産の売却などに伴うその他の収益がなくなった影響により、全社では減益となりました。

売上収益は 前年同期比4.1%増の4,243億円、
営業利益は 同3.3%減の465億円、
税引前利益は 同5.2%減の484億円、
四半期利益は 同6.5%減の348億円 です。

なお、売上収益は3-11月期としては過去最高を更新しました。

それでは、次の5ページにお進みください。

2023年度 3-11月期 実績（セグメント別）

・ モーションコントロールは主にインバータ事業の生産正常化が寄与し、
ロボットは欧米での生産の高度化・自動化に対する底堅い需要などを受け増収増益

(単位：億円)	2023年度 3-11月期		2022年度 3-11月期		前年同 期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
売上収益	4,243		4,075		+168	+4.1%
モーションコントロール	1,981		1,885		+95	+5.0%
ロボット	1,669		1,618		+51	+3.2%
システムエンジニアリング	402		348		+54	+15.5%
その他	192		224		▲32	▲14.4%
営業利益	465	11.0%	481	11.8%	▲16	▲3.3%
モーションコントロール	285	14.4%	261	13.9%	+24	+9.0%
ロボット	186	11.1%	177	10.9%	+9	+5.1%
システムエンジニアリング	16	4.1%	8	2.3%	+8	+102.6%
その他	1	0.4%	6	2.6%	▲5	▲85.5%
消去または全社	▲22	-	30	-	▲52	-

セグメント別の業績です。

モーションコントロールは、主にインバータ事業の生産正常化が寄与し、
ロボットでは欧米での生産の高度化・自動化に対する底堅い需要などを受け、
それぞれ増収増益となりました。

なお、“売上収益における為替の影響”は全社でプラス139億円でした。

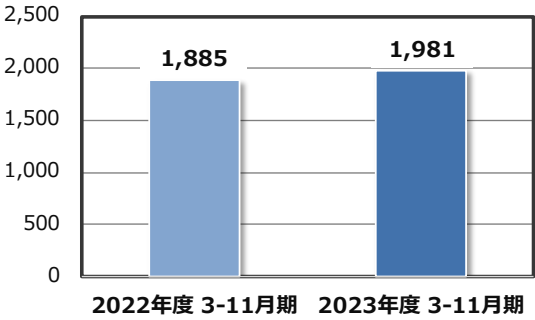
内訳として、モーションコントロールでプラス62億円、ロボットでプラス65億円、
システムエンジニアリングでプラス12億円です。

続いて、各セグメントの詳細についてご説明いたします。

次の6ページへお進み下さい。

主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



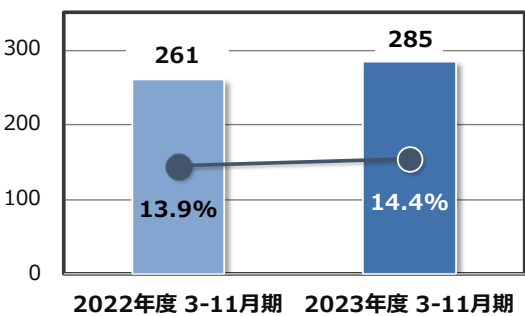
【売上収益】

- ACサーボは受注残の消化を進めたものの、半導体・電子部品需要が低迷し減収
- インバータは生産の正常化でグローバルで売上が拡大。米国のオイル・ガス関連およびアセアン各国やインドでインフラ関連需要が堅調に推移し、売上収益は大幅に増加

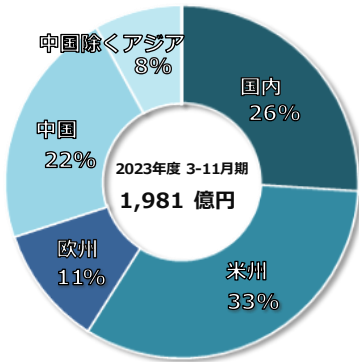
【営業利益】

- 売上増加による利益増加や、昨年度来高騰した原材料費の価格転嫁による採算性改善などにより増益

営業利益(億円)・営業利益率(%)



所在地別売上収益構成比



モーションコントロールの状況です。
売上収益は、前年同期比5.0%増の1,981億円、
営業利益は9.0%増の285億円となりました。

なお、23年度3-11月期におけるACサーボとインバータの売上収益の比率は、
ACサーボが 51%、インバータが 49%です。

ACサーボは、受注残の消化を進めましたが、半導体・電子部品向けの需要低迷の影響を受け、
売上収益は減少しました。

インバータは、生産の正常化により、グローバルで売上が拡大しました。
特に、米国のオイル・ガス関連およびアセアン各国やインドにおけるインフラ関連需要が堅調に推移し、
売上収益は大幅に増加しました。

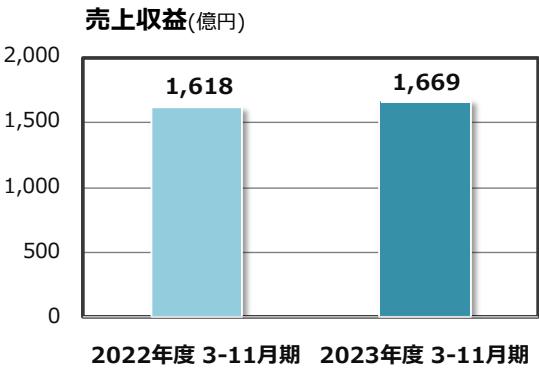
利益については、売上増加による利益増加や、昨年度来高騰した原材料費の価格転嫁による
採算性の改善などにより増益となり、営業利益率は0.5ポイント増の14.4%となりました。

ご参考として、23年度3-11月期の所在地別 売上収益 構成比の内訳についてお伝えします。

ACサーボは、
国内32%、米州21%、欧州12%、中国28%、中国除くアジア7%です。
インバータは、
国内21%、米州44%、欧州9%、中国16%、中国除くアジア10%です。

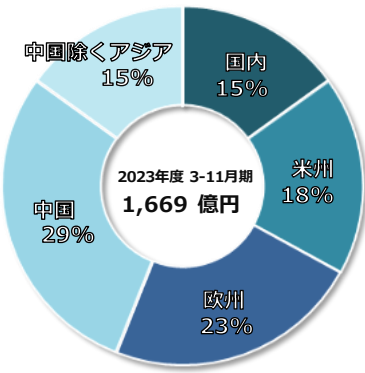
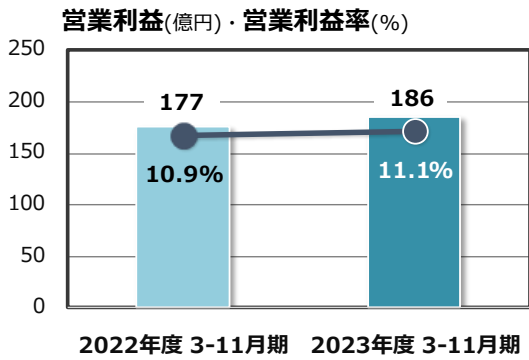
それでは、次の7ページにお進みください。

主要事業の概要 ロボット



- 【売上収益】
- 一般産業分野において中国では投資が低迷も欧米で人件費高騰・労働力不足を背景とした生産の高度化・自動化の投資が底堅く推移し増収
- 【営業利益】
- 価格転嫁の取組みやi³-Mechatronicsソリューションによる高付加価値提案の効果などにより増益

所在地別売上収益構成比



ロボットの状況です。

売上収益は、前年同期比3.2%増の1,669億円、
営業利益は、5.1%増の186億円となりました。

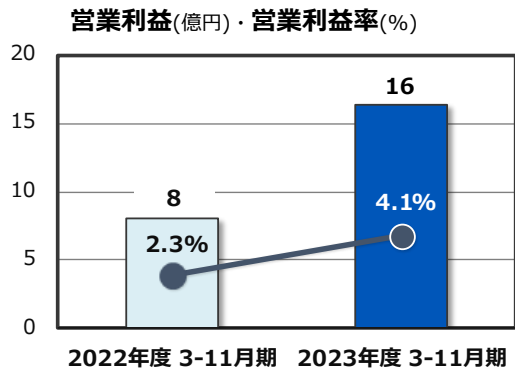
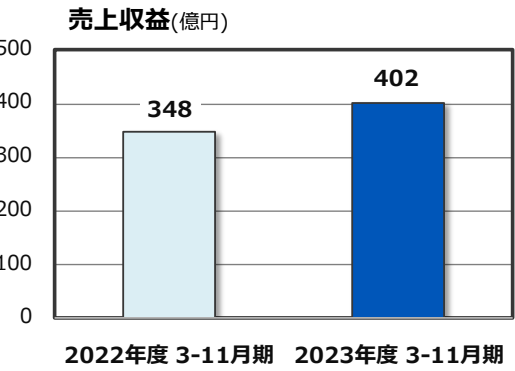
一般産業分野において、中国では投資が低迷した一方、
欧米を中心に人件費高騰・労働力不足を背景とした
生産の高度化・自動化の投資が底堅く推移したことから、
売上収益は前年同期比で増加しました。

利益面については、高騰した資材の価格転嫁の取組みや
i³-Mechatronicsソリューションによる高付加価値提案の効果などにより増益となりました。

これらの結果、営業利益率は前年同期から0.2ポイント改善し、11.1%となりました。

それでは、次の8ページにお進みください。

主要事業の概要 システムエンジニアリング

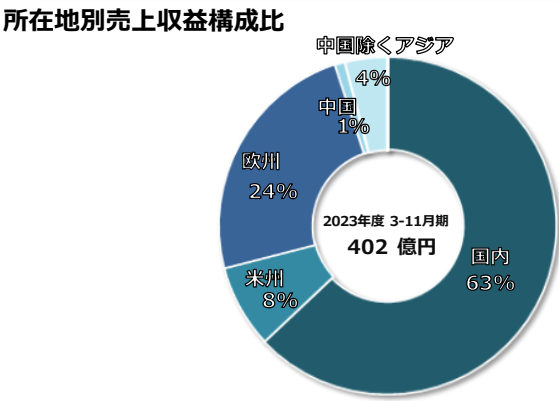


【売上収益】

- 日米における太陽光発電用パワーコンディショナや海外の港湾クレーン関連の販売が堅調に推移し増収

【営業利益】

- 売上増加による利益増加に加え、経費コントロールの徹底などにより大幅に改善



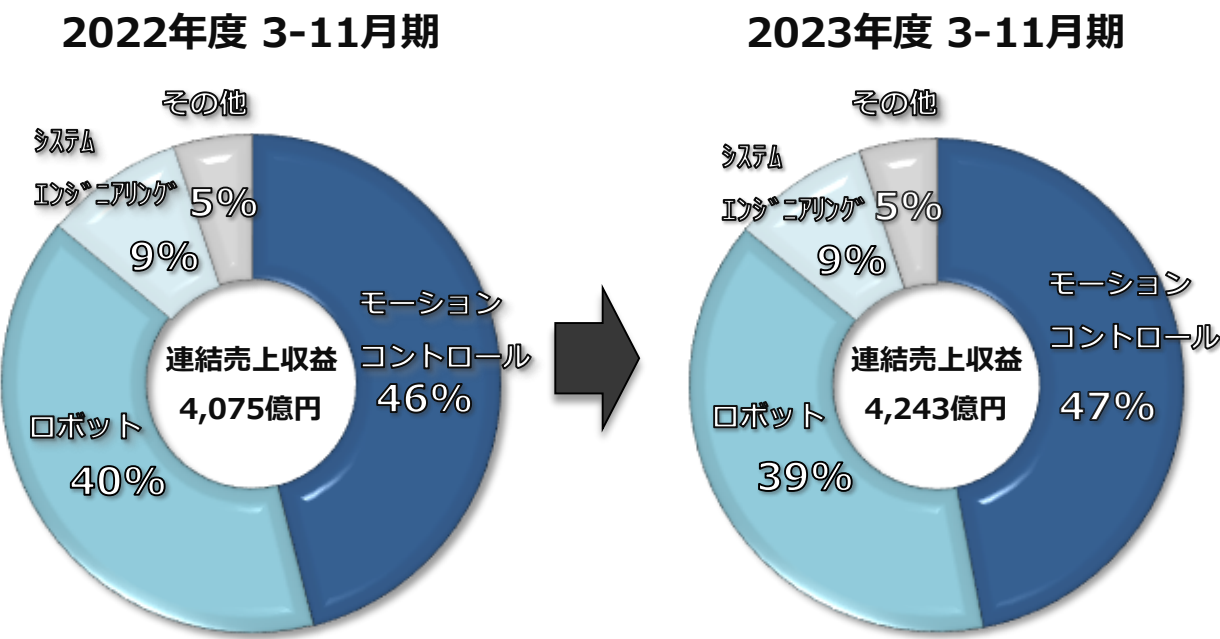
システムエンジニアリングの状況です。

売上収益は、前年同期比15.5%増の402億円、
営業利益は、102.6%増の16億円となりました。

日米における太陽光発電用パワーコンディショナや、海外の港湾クレーン関連の販売が堅調に推移し、
売上収益は前年同期比で増加しました。

利益面については、売上増加による利益増加に加え、
経費コントロールの徹底などにより大幅に改善したことから、
営業利益率は前年同期から1.8ポイント改善の4.1%となりました。

それでは、次の9ページにお進みください。



セグメント別の売上収益 構成比です。

モーションコントロールが前年同期から1ポイント増加した一方で、ロボットが1ポイント減少となりました。

これらの結果、モーションコントロールは47%、ロボットは39%の構成比となりました。

システムエンジニアリングとその他セグメントは、前年同期から横ばいで推移し、構成比はそれぞれ 9 %、5 %です。

それでは、次の10ページにお進みください。

所在地別売上収益

・ 中国を除くすべての地域において前年同期比で増加

	2023年度	2022年度	前 年 同 期 比	
	3-11月期 実績	3-11月期 実績	増減額	増減率
(単位：億円)				
売 上 収 益	4,243	4,075	+168	+4.1%
国内	1,187	1,168	+19	+1.7%
海外	3,056	2,908	+149	+5.1%
米州	977	844	+133	+15.8%
欧州	693	597	+96	+16.1%
中国	959	1,051	▲92	▲8.8%
中国除くアジア	427	415	+12	+2.8%

[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別の売上収益です。
中国を除き、すべての地域において前年同期比で増収となりました。

地域別の状況ですが、
国内は、半導体市場における在庫調整の継続や自動車市場における投資の低迷などにより、
需要は伸び悩みました。

米州は、調整局面にある半導体市場の需要が低調に推移したものの、
自動車やオイル・ガス関連などの設備投資や、一般産業分野における自動化投資が継続しました。

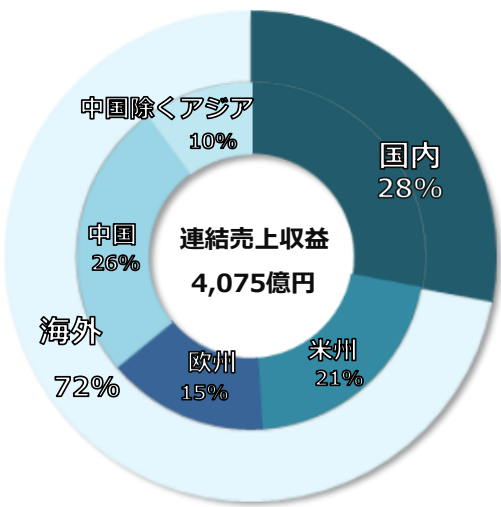
欧州は、景気後退の影響を受け需要は減速しましたが、EVなどの成長市場において
設備投資が継続しました。

中国は、太陽光発電用パネル製造装置などの一部市場において
期初に堅調な需要が見られましたが、市場全体の回復が総じて鈍く、
製造業全般の需要は伸び悩みました。

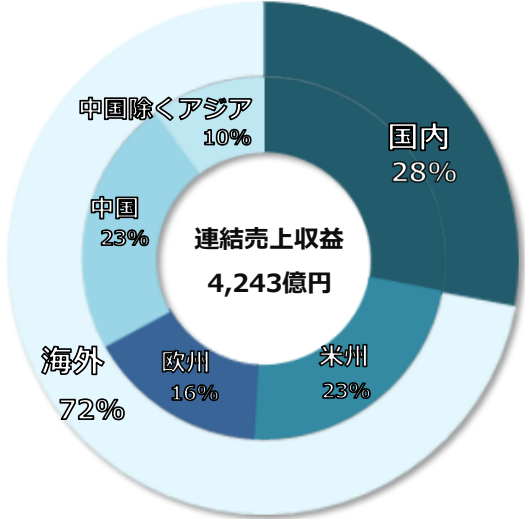
中国除くアジアについては、アセアン各国やインドにおいて、インフラ関連や一般産業分野などで
新規設備投資が堅調に推移しました。
また、半導体市場の需要については、期の後半に韓国で回復の兆しが見られました。

それでは、次の11ページにお進みください。

2022年度 3-11月期



2023年度 3-11月期



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

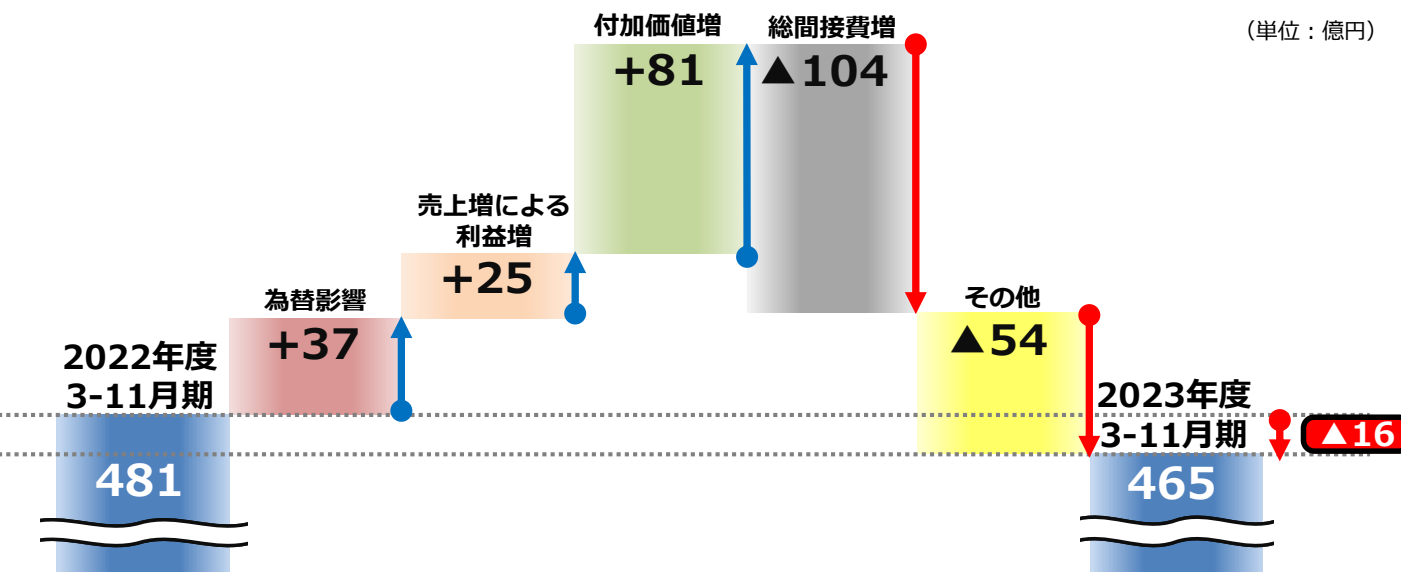
所在地別の売上収益 構成比は、
海外が72%、国内が28%となり、前年同期から変化はありませんでした。

海外の内訳として、中国が3ポイント減少した一方で、
米州が2ポイント、欧州が1ポイント、それぞれ増加しました。

それでは、次の12ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2022年度 3-11月期 → 2023年度 3-11月期）

(単位：億円)



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+17	+17	+42	▲52	▲1
ロボット	+20	▲7	+35	▲40	+1
システムエンジニアリング	▲0	+18	▲1	▲8	▲0
その他	+0	▲3	+5	▲4	▲54

営業利益の増減要因分析です。

当期の営業利益は、前年度の481億円から16億円減少し、465億円となりました。

為替による影響は、ドル・ユーロなど各通貨が円安に推移し、プラス37億円。

売上増による利益増加では、モーションコントロール・システムエンジニアリングが伸長し、プラス25億円。

付加価値の増加はプラス81億円。
主な内訳として、材料費の高騰影響がマイナス35億円、
物流費の正常化影響がプラス23億円、価格転嫁の進展による効果がプラス62億円、
新製品の切り替え効果がプラス5億円、となっています。

総間接費の増加による影響はマイナス104億円。
内訳として、インフレ対応などの労務費増加分と、活動費の増加分がそれぞれ半分程度です。

最後の「その他」はマイナス54億円です。
これは、前年度に一時的に発生した退職年金制度の変更や遊休不動産の売却などに伴う
その他収益が無くなった影響によるものです。

それでは、次の13ページにお進みください。

▶ “i³-Mechatronics”のビジネスモデル確立

➔ 開発力の強化

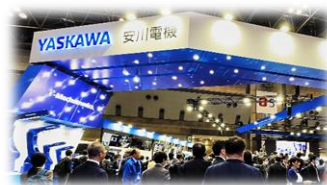
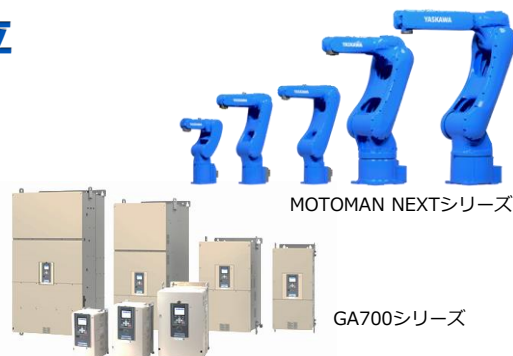
- ・ 新規自動化領域の開拓を狙った新型自律ロボット「MOTOMAN NEXTシリーズ」の市場投入(23年12月)
- ・ デジタルツイン[※]環境を実現するエンジニアリングツール「YASKAWA Cell Simulator」の市場投入(23年12月)

➔ 生産力の強化

- ・ 米国(オハイオ州)にロボットシステムの新工場建設を決定
- ・ ロボットの新機械加工工場にて稼働開始に向けた試運転を実施(24年3月 稼働開始予定)

➔ 販売力の強化

- ・ 安川インバータGA700シリーズの大容量帯ラインアップを拡充
- ・ i³-Mechatronicsソリューションコンセプトの実現に向けた自律分散制御による自動化を「2023国際ロボット展」にて提案



「2023国際ロボット展」

▶ サステナブルな社会/事業に寄与する経営基盤の強化

- ・ 非財務指標(TSR,CO₂削減量等)を織り込んだ全従業員向けの中長期インセンティブを策定
- ・ 中国・瀋陽工場において太陽光発電システムを設置し、生産活動におけるCO₂排出量削減を加速

[※] 生産ラインをバーチャルで再現し何度もシミュレーションさせることでシステムセットアップの時間を短縮したり、遠隔での操作を可能にする技術

2023年度3Qにおける取り組みです。

当社のソリューションコンセプトである“i³-Mechatronics”を実現するキーコンポーネントとして、新型自律ロボット「MOTOMAN NEXTシリーズ」と、デジタルツイン環境を駆使し、変種変量生産に対応するエンジニアリングツール「YASKAWA Cell Simulator」を12月に市場投入しました。

特にMOTOMAN NEXTは、これまでのMOTOMANとは全く別の自律型のロボットであり、今まで自動化が難しかった領域に展開していきます。

生産力の強化では、さらなる自動化ニーズの拡大が期待される米州において、エンジニアリング能力の向上を目的に、ロボットのシステム工場を建設することを決定しました。

また、国内では、北九州市の本社地区に建設中のロボット機械加工工場にて、試運転を実施するなど、2024年3月の生産開始に向けた準備を着々と進めています。

販売力の強化については、安川インバータ GA700シリーズの適用範囲を拡大すべく、400ボルト級の容量ラインアップを拡充しています。

また、昨年11月に開催された2023国際ロボット展においては“自律分散制御による自動化”を実現するデモ展示を行い、来場者の方から多くのお問い合わせを頂きました。

サステナブルな経営基盤の強化に向けては、従業員向けに非財務指標を盛り込んだ新しい中長期インセンティブを策定しました。

また、中国の瀋陽工場においては、当社グループ最大規模となる約3メガワットの太陽光発電システムを設置し、生産活動におけるCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

それでは15ページにお進みください。

2. 2023年度 通期 連結業績見通し

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>

・ 受注残の確実な消化を売上の促進につなげることで、全社通期見通し(2023年4月7日公表)を据え置く

	2023年度 見通し	2022年度 実績	前年同 期 比	
			増減額	増減率
売 上 収 益	5,800億円	5,560億円	+240億円	+4.3%
営 業 利 益	700億円	683億円	+17億円	+2.5%
税 引 前 利 益	727億円	711億円	+16億円	+2.2%
親会社の所有者に帰属する 当 期 利 益	513億円	518億円	▲5億円	▲0.9%

2023年度 通期の業績見通しです。

受注残の確実な消化を売上の促進につなげることで、
2023年4月7日に公表しました全社の見通しを据え置きます。

なお、23年度4Qにおける想定為替レートは、
2023年10月6日に公表した内容から変更なく、
ドル145円、ユーロ155円、人民元20円、韓国ウォン0.11円と想定しています。

続いて、次の16ページにお進みください。

2023年度 通期 見通し（セグメント別）

・セグメント別の通期見通しについては、足元の需要動向を考慮し修正

(単位：億円)	2023年度		2022年度		前年同期比		2023年度	
	見通し	利益率	実績	利益率	増減額	増減率	前回見通し※	利益率
売上収益	5,800		5,560		+240	+4.3%	5,800	
モーションコントロール	2,674		2,521		+152	+6.0%	2,710	
ロボット	2,347		2,238		+109	+4.9%	2,345	
システムエンジニアリング	524		511		+13	+2.6%	505	
その他	255		289		▲34	▲11.7%	240	
営業利益	700	12.1%	683	12.3%	+17	+2.5%	700	12.1%
モーションコントロール	414	15.5%	362	14.4%	+53	+14.5%	419	15.4%
ロボット	277	11.8%	261	11.7%	+16	+6.1%	301	12.8%
システムエンジニアリング	41	7.9%	26	5.0%	+16	+61.1%	18	3.6%
その他	2	0.8%	18	6.2%	▲16	▲88.5%	▲2	▲0.8%
消去または全社	▲35	-	16	-	▲51	-	▲35	-

※ 2023年10月6日 FY23 2Q決算発表時

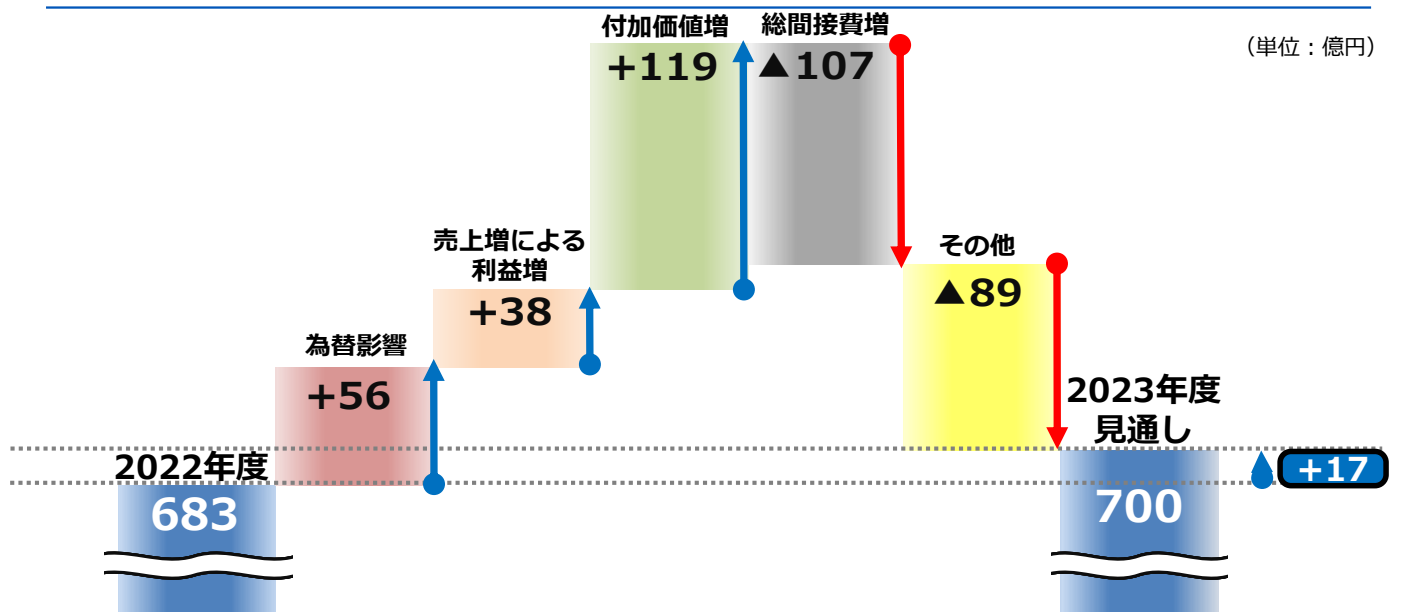
セグメント別の通期見通しです。

全社の見通しは据え置きましたが、セグメント別の見通しは足元の需要動向などを考慮し、それぞれ修正します。数値詳細はご覧の通りです。

それでは、次の17ページにお進みください。

営業利益増減要因分析（2022年度 → 2023年度見通し）

(単位：億円)



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+28	+29	+57	▲44	▲17
ロボット	+29	▲5	+51	▲55	▲4
システムエンジニアリング	▲0	+17	+3	▲4	▲1
その他	+0	▲3	+8	▲4	▲68

通期見通しにおける営業利益増減要因分析です。

2023年度の営業利益は、前年度の683億円から17億円増加の700億円を計画しています。

為替による影響は、円安に推移する想定でプラス56億円。

売上増による利益増加はプラス38億円。
インバータの生産正常化などによる既存事業の売上増加に加え、
組織再編影響としてプラス10億円を織り込んでいます。

付加価値の増加はプラス119億円。
主な内訳として、材料費の高騰影響がマイナス36億円と想定する一方、
物流費の正常化によってプラス32億円、価格転嫁の進展によってプラス81億円、
新製品の切替効果によってプラス9億円、それぞれ計画しています。

総間接費の増加は、マイナス107億円。
内訳として、中長期インセンティブやインフレ対応などの労務費増加分が半分弱、
活動費の増加分が半分強です。

最後の「その他」はマイナス89億円。
これは前年度に一時的に発生した退職年金制度の変更や、
遊休不動産の売却などに伴う「その他収益」が無くなった影響に加え、
固定資産の除却損などによるものです。

それでは、19ページにお進みください。

3. 参考資料

設備投資・研究開発費, 為替レート・感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位：億円)

	2021年度（実績）	2022年度（実績）	2023年度（計画）
設備投資額	241.8	276.1	380.0
減価償却費	174.8	196.7	210.0
研究開発投資	181.8	187.8	210.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位：円)

	2021年度（実績）				2022年度（実績）				2023年度（想定）			
	3-11	4Q	下期	通期	3-11	4Q	下期	通期	3-11	4Q	下期	通期
対 米ドル	110.5	114.6	113.5	111.5	134.5	132.9	138.6	134.1	142.1	145.0	147.1	142.9
対 ユーロ	130.7	129.7	130.1	130.4	139.1	142.0	143.0	139.8	153.7	155.0	157.1	154.1
対 元	17.12	18.02	17.77	17.33	19.80	19.33	19.77	19.68	19.89	20.00	20.24	19.92
対 ウォン	0.096	0.096	0.096	0.096	0.103	0.105	0.104	0.103	0.108	0.110	0.111	0.109

為替感応度

(単位：億円)

	1%変動による影響額目安 (2023年度_通期)	
	売上収益	営業利益
米ドル	13.9	3.6
ユーロ	9.2	1.8
元	12.7	2.9
ウォン	3.5	1.8

[注] 通期における為替相場の安定が前提

設備投資・研究開発費の状況です。

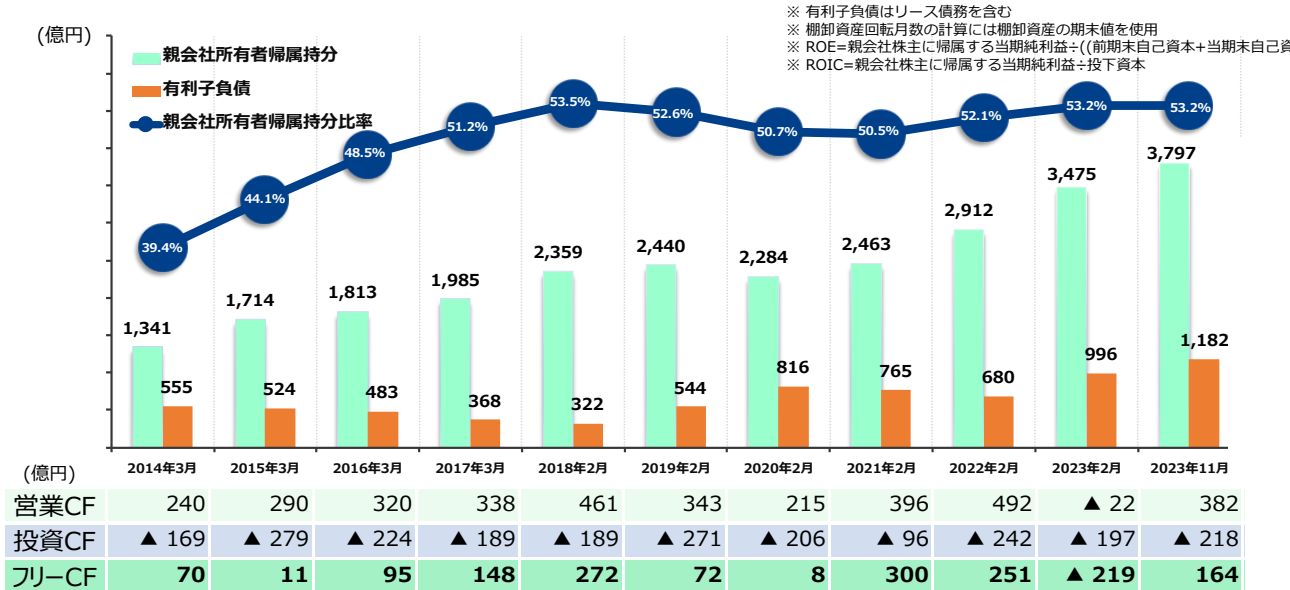
2023年度の研究開発費の計画について、YRMコントローラなどの新製品の開発を推進したことなどに理由に、今回見直しを行い、従前の190億円から20億円増額し、210億円となる想定です。

それでは、24ページにお進み下さい。

B/S 構造の推移

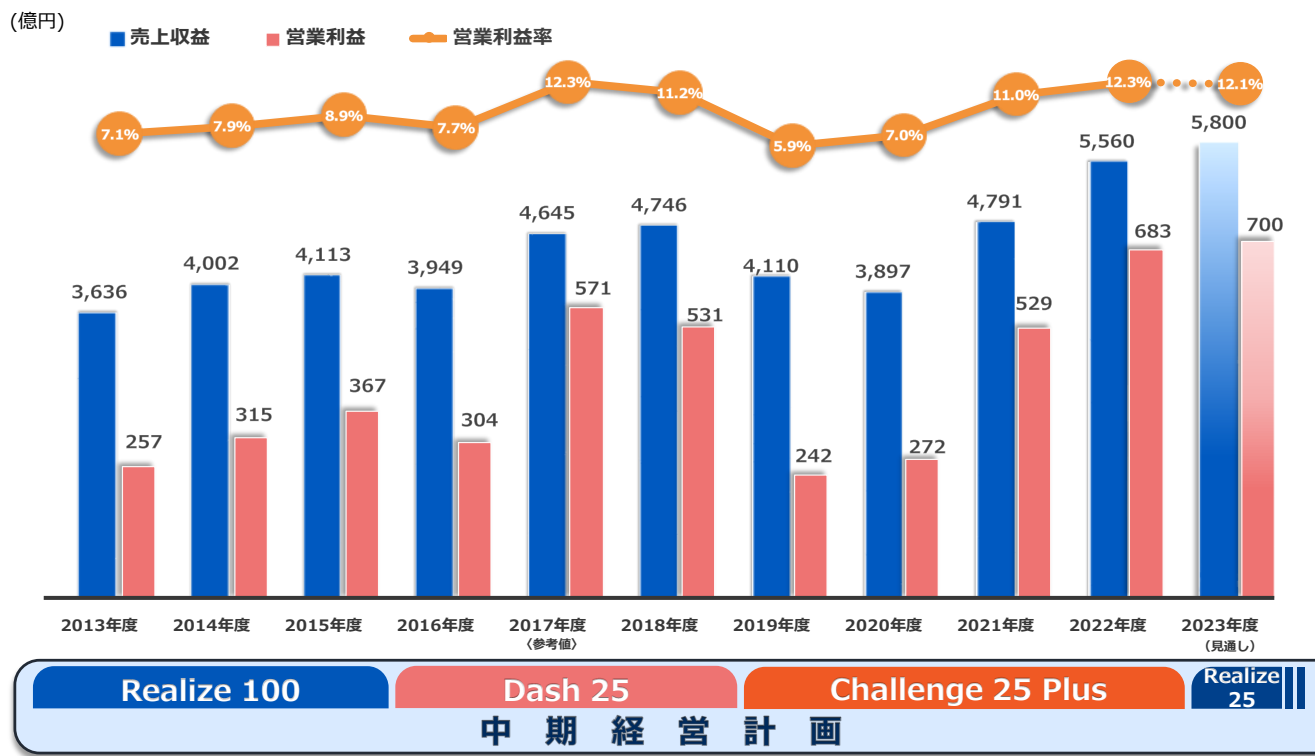
2023年2月28日時点			
➢ 親会社所有者帰属持分比率	53.2%	➢ 棚卸資産	1,822億円
➢ 親会社所有者帰属持分	3,475億円	(回転月数)	(3.9ヶ月)
➢ 有利子負債	996億円	➢ ROE	16.2%
➢ D/Eレシオ	0.29	➢ ROIC	14.6%
(ネットD/Eレシオ)	0.16		

2023年11月30日時点			
➢ 親会社所有者帰属持分比率	53.2%	➢ 棚卸資産	2,051億円
➢ 親会社所有者帰属持分	3,797億円	(回転月数)	(4.5ヶ月)
➢ 有利子負債	1,182億円		
➢ D/Eレシオ	0.31		
(ネットD/Eレシオ)	0.17		



[注] 2018年2月までのデータは日本基準にて記載

売上収益・営業利益推移（2013年度～2023年度見通し）

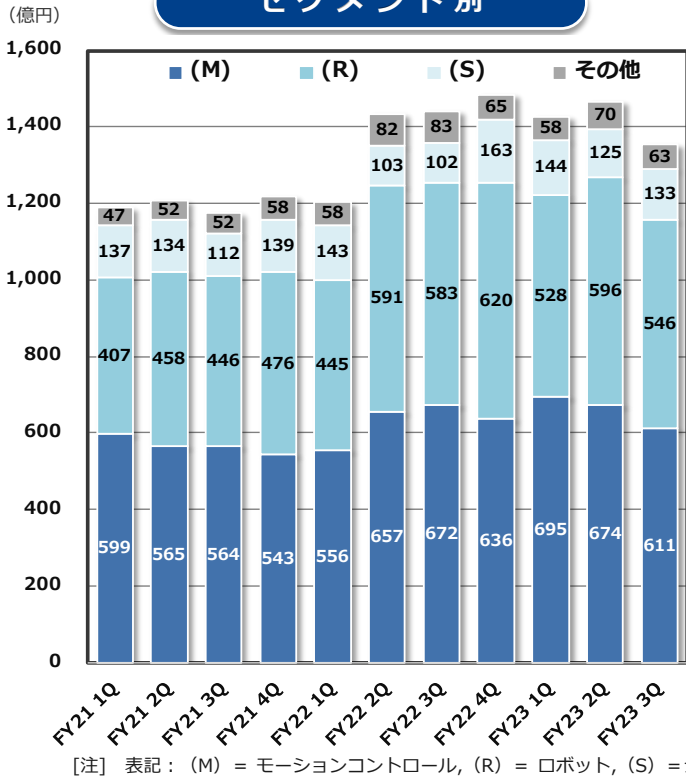


[注1] 2017年度までのデータは日本基準にて記載
[注2] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

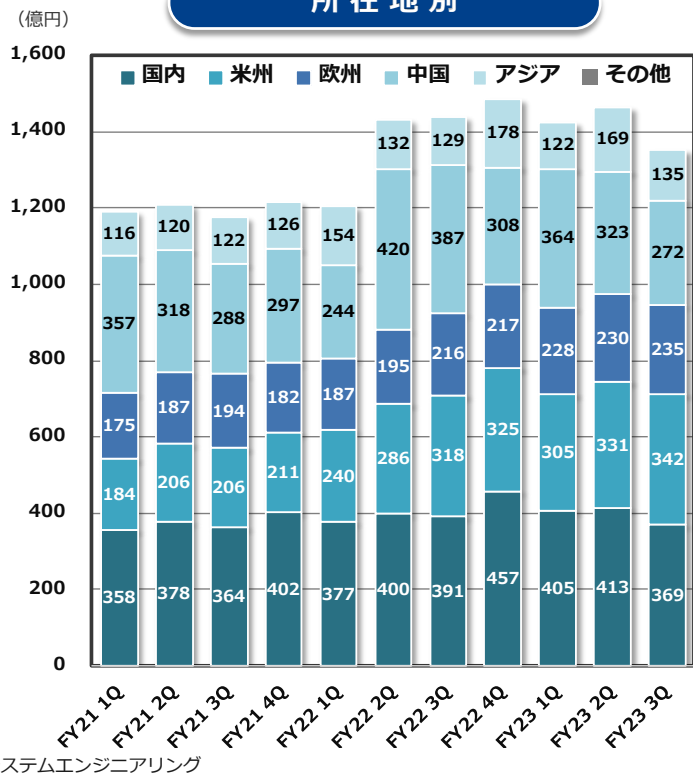
<スキップ>

四半期売上収益推移

セグメント別



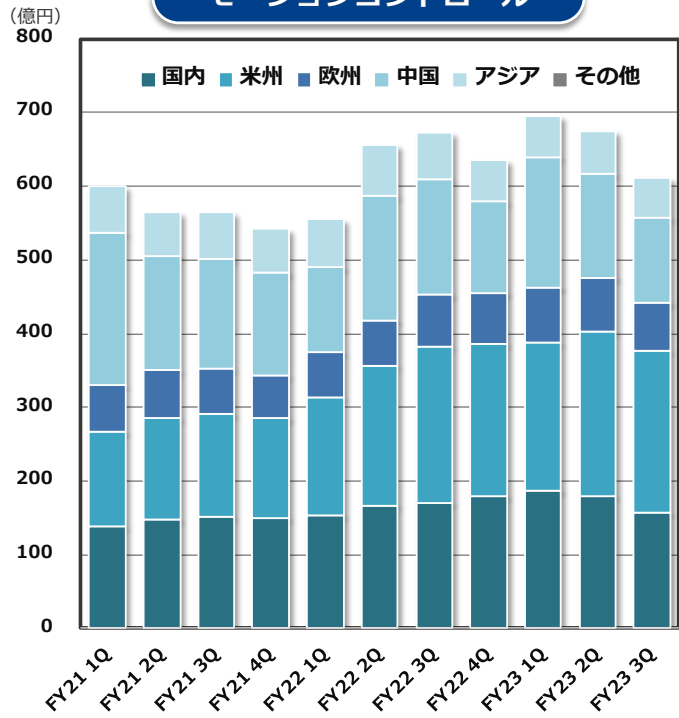
所在地別



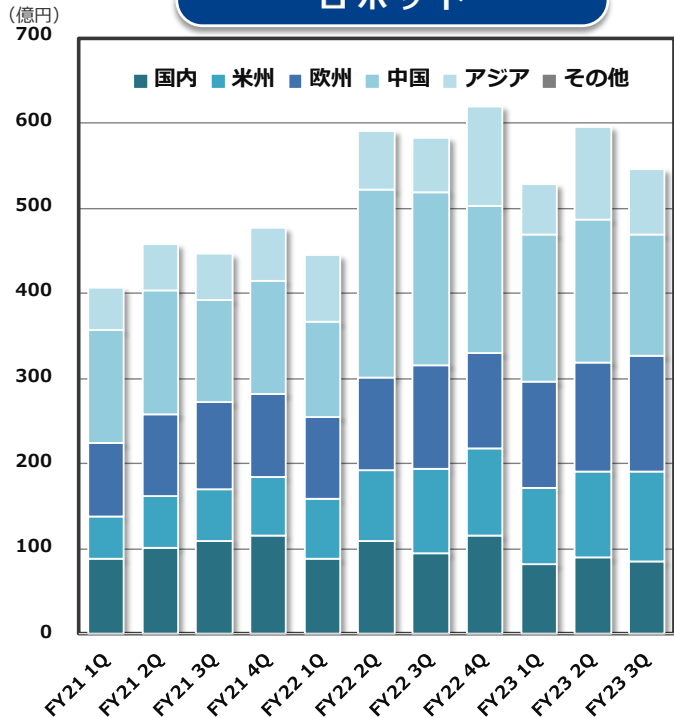
<スキップ>

四半期売上収益推移

モーションコントロール

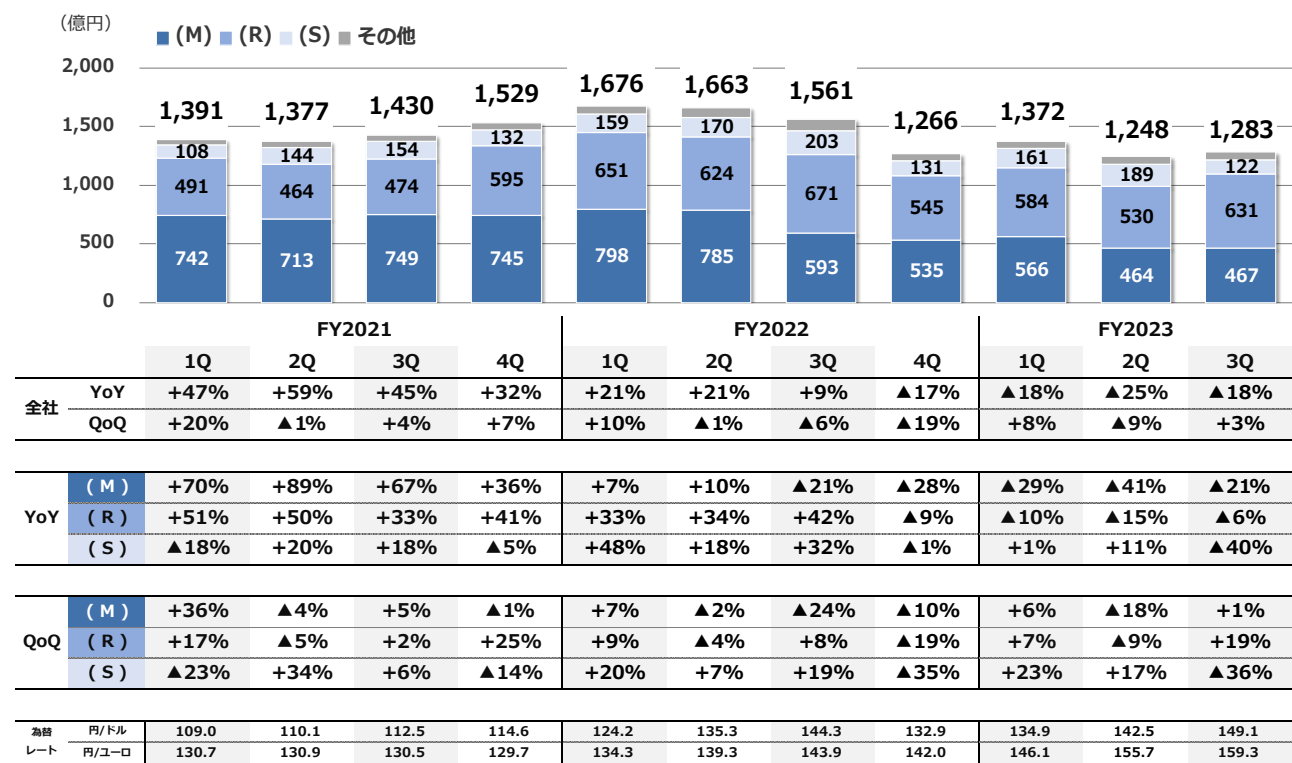


ロボット



<スキップ>

四半期受注推移（セグメント別） ※為替は期中平均レートを使用



参考情報として開示しております四半期連結受注推移について、
今年度 第3四半期のセグメントごとの地域別増減率を次の通りお伝えします。

ACサーボのYoYは全体で▲31% です。
内訳は、国内▲53%、米州▲19%、欧州▲47%、中国▲5%、その他アジア+4% です。

QoQは全体で▲9% です。
内訳は、国内▲7%、米州+3%、欧州▲16%、中国▲23%、その他アジア+40% です。

インバータのYoYは全体で▲11% です。
内訳は、国内▲20%、米州+6%、欧州▲53%、中国▲14%、その他アジア▲23% です。

QoQは全体で+10% です。
内訳は、国内▲10%、米州+27%、欧州▲13%、中国+13%、その他アジア▲11% です。

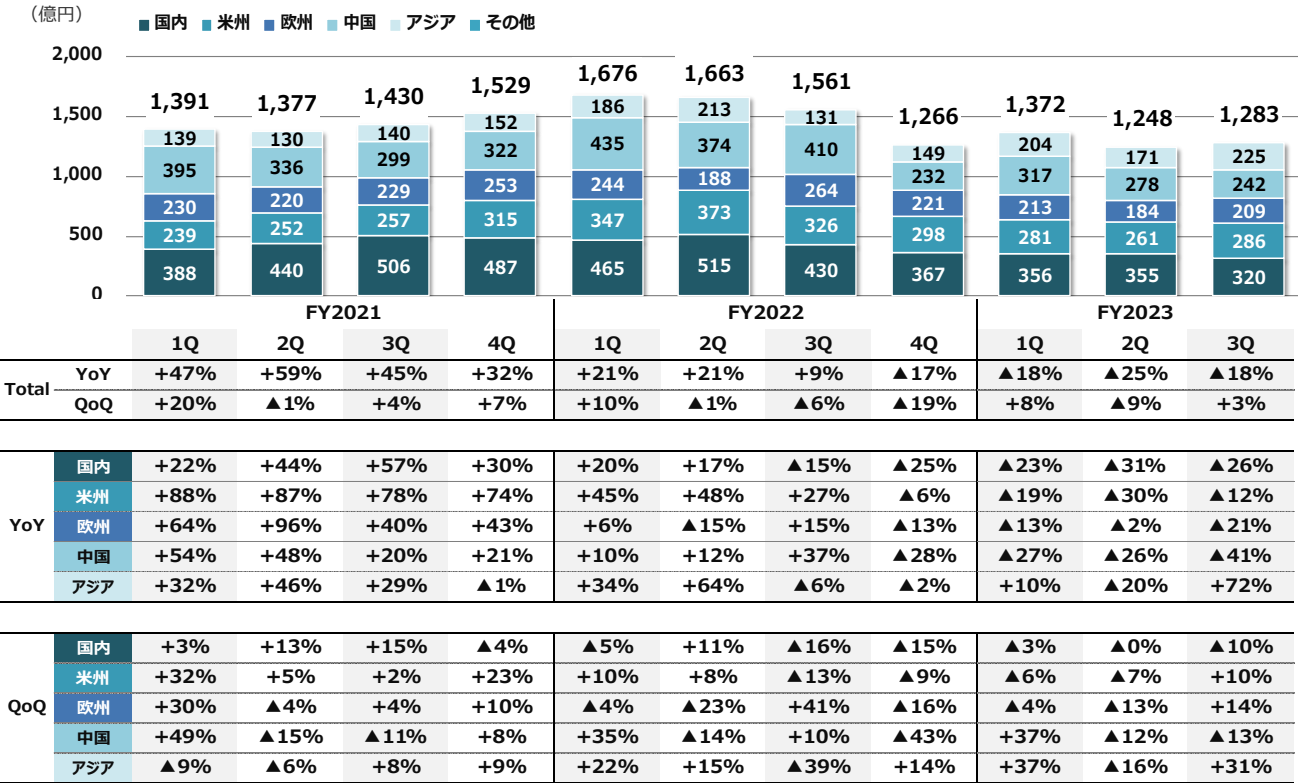
ロボットのYoYは全体で▲6% です。
内訳は、国内+1%、米州▲20%、欧州+14%、中国▲53%、その他アジア+126% です。

QoQは全体で+19% です。
内訳として、国内+6%、米州▲1%、欧州+34%、中国▲15%、その他アジア+84% です。

それでは、次の25ページにお進みください。

四半期受注推移（所在地別）

※為替は期中平均レートを使用



所在地別の受注推移です。
数字はご覧の通りです。

なお、最後になりますが、配当につきましては、
期初発表時の内容から変更はありません。

中間配当は1株につき32円を実施いたしました。
期末配当についても1株につき32円となる予定です。

これにより、年間の配当予想は前年度の金額を維持し、64円とさせていただきます。

以上をもちまして、2023年度 第3四半期連結累計期間の業績概要の説明を終わります。
ご清聴ありがとうございました。

YASKAWA

© 2024 YASKAWA Electric Corporation

<スキップ>